

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(30年度:計画作成主体:潟上市天王地域農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

対象品目 : 水稻・大豆 (産地面積: 44.2ha)
 主な取組主体 : 農事組合法人ファーム北野
 農業者16名
 成果目標 : 生産コストの10%以上の削減
 水稻基準 (H29年度 90,113円/10a)
 水稻目標 (R2年度 80,262円/10a)
 大豆基準 (H29年度 37,105円/10a)
 大豆目標 (R2年度 31,796円/10a)
 導入施設等 : 整備事業
 乾燥調製施設 200㎡
 (処理量 水稻:250t、大豆:32t)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】
 農家の高齢化が進む中、地域の受け皿となるべく集落型の法人として農事組合法人ファーム北野が設立された。
 法人設立当初から、JAカントリーエレベーターを活用しており、取扱い品種である「あきたこまち」と「ひとめぼれ」を主力に生産してきたが、昨今の主食用米の需要低下を鑑み、多収が見込まれる業務用米等の生産にシフトするためにライスセンターを整備するとともに、機械・施設の共同利用等により生産コスト削減、作業の効率化を図る。

【産地の体質強化に向けた方策】
 ①法人への農地集積による作業の効率化を図る
 ②ライスセンターを整備し、水稻・大豆生産作業の効率化を図る
 ③需要に応じた米生産の推進のため、JAと連携を図りながら業務用米等の生産拡大を図る

産地体制

地域の関係者(潟上市、JA秋田なまはげ、秋田県秋田地域振興局)が連携を図り事業を推進

地域における独自の取組

〈主な取組〉

園芸作物(ねぎ)の出荷調整の拠点を独自に整備した。これに伴う生産体制の構築及び面積拡大のために必要な機械等の導入支援

〈市町村単独事業〉

市単独事業「潟上市農業生産力向上事業」による園芸作物に関連する機械等の導入

取組成果

【事業実施による直接効果】
 ○ ライスセンター(共同利用施設)設立によるコスト削減、省力化
 ○ ライスセンターによる水稻、大豆の均質化
 【事業実施による間接効果】
 ○ 水稻・大豆作業の効率化による、ねぎの生産拡大、地元雇用の確保

【水稻】生産コストが
30.2%減少
 (達成率276%)

【大豆】生産コストが
25.4%減少
 (達成率177%)



～水稻の生産コスト～

目標値 80,262円/10a
 (10.9%削減)

90,113円/10a

H29年度
(基準年)

62,918円/10a

R2年度
(目標年)

～大豆の生産コスト～

目標値 31,796円/10a
 (14.3%削減)

37,105円/10a

H29年度
(基準年)

27,696円/10a

R2年度
(目標年)